

天候不順な夏でしたが、見学会当日は晴れ渡り仁徳天皇陵の散策も恵まれ過ぎた日差しの下、説明ボランティアさんの興味深い説明に古墳に持っていた印象を一新しました。

古墳造成とお堀の関係の単純な理由、泥玉の装飾にビジネスモデルのヒントを戴きました。

知っているつもりでも現地に行って、その場で教えていただくことの大切さを感じた次第です。

この度の、テーマ「海事科学にみるエレクトロニクスの見学」では海に囲まれた日本がその資源の利用だけでなく、そこにあるエネルギーの利用までそのシステムの広がりがある事を改めて知る機会となりました。

今回、講演頂きました 有馬先生の「自立型水中グライダー」におきましては、普段触れることの少ない水中のイメージがなく、その移動の原理すら発想出来ていませんでした。

アクティブなエネルギーを使った発想に偏りがちな中、長い期間、自然へのダメージの少ないパッシブな思想はこれからの文明の進む道のように感じます。

そのシステムの完成には夢もありますがまだまだ解決する課題も多く、挑戦していくには面白い分野のように思います。

また講演の中で 小笠原やアラスカなど憧れの海でシャチやクジラに触れられ

---





写真1 仁徳天皇陵古墳 前にて



写真2 大阪府立大学にて見学前の講演





写真3 水中グライダーの見学



写真4 船舶などの開発用の大型水槽の見学